

2014年9月11日

福井県知事 西川一誠様  
福井県安全環境部危機対策・防災課 担当者様

原発問題住民運動福井県連絡会  
代表委員 奥出春行・北原武道  
多田初江・佐藤正雄

## 一部の住民参加で、防災情報は不徹底、不十分な広域避難、

### 緊張感不足の訓練では住民のいのちと安全は守れない

福井県は、8月31日に関西電陸高浜原発3号機の重大事故を想定した原子力防災訓練を行いました。原発事故の際に可能なかぎり被害を少なくするために県が最大限有効な避難計画を作成することが不可欠です。しかし私たちが見た現実には、参加住民は一部で防災訓練情報も住民に不徹底、自衛隊の海上住民輸送の音海海岸の横で釣り人が訓練を知らずにいたり、県外への避難者は高速道路の手前で終了、住民も職員も半袖姿での参加があるなど「本当の事故時にはうまくいかないのではとの声も多かった」「混乱状態も考慮を」(福井新聞)と報道するほどでした。私たちにも新たな「安全神話」に胡坐をかいた「付け焼刃でお茶を濁した取り組み」にしか映りませんでした。

「原発問題住民運動福井県連絡会」では、住民のいのちと安全を最優先に全住民が避難計画を知り迅速な行動がとれるよう適切な原子力防災訓練にする観点から以下の点の改善を求めます。

[要請項目]

#### **防災訓練の情報を全住民に事前説明・公開の徹底と全住民参加の避難訓練を行ってください。**

県の計画は1か月以上前よりあったにも関わらず地元自治体や住民への説明・公開は直前で住民にはチラシのみでした。周知徹底不足は参加者の服装に反映されています。参加者は「自宅待機者」も入れて高浜町民373名です。参加を町民全てに拡大し事前説明と全住民参加の訓練を行ってください。

#### **安定ヨウ素剤の事前配布と徹底した住民説明会を開催してください。**

訓練の想定では、5キロ圏内の住民への安定ヨウ素剤の配布と住民説明会を行うとのことでしたが、実際の訓練では住民が車と徒歩で配布場所に到着し問診後にチョコレートを模擬配布ただけで、その後の誘導も不徹底でした。5キロ圏内はもとより30キロ圏内の住民も対象に安定ヨウ素の配布と住民説明会を開催してください。

#### **車避難者への除染とパニック対策に力を入れた安全な住民避難を行ってください。**

今回の避難車の除染場所は10キロ圏内で「ゲート型モニター」を使用して自衛隊が行いました。しかし車のみの除染で避難者への除染はなし、下にシートを引いたのみで除染した水は下に漏れていました。車での避難者への除染が必要です。また1台3分以上かかる除染時間では、膨大な待ち時間が予想されます。我先に逃げるパニック時には渋滞が予想され、避難場所へ移動の途中で10キロ圏内と近い避難中継所へ除染に立ち寄りさせる想定は、無理があります。また内浦、音海地区から車での避難の場合、高浜原発の前の道路を通る計画も確実な情報がないと不安を助長します。改善を求めます。

#### **障がい者や入院患者など交通弱者を最優先に防災避難させる対策を強めてください。**

入院患者、福祉施設入所者、障がい者、児童、妊婦など交通弱者を真っ先に安全に避難させる訓練となっていない様子でした。対象圏内の全ての交通弱者を安全に避難させるように対策してください。

#### **現実的な実行性がある避難計画・訓練を**

このような「一部住民」のための原子力防災訓練では原発の過酷事故が発生した時に住民のいのちと安全は守れません。住民の立場に立った被害予測を行った上で、災害対策・避難計画を立てて訓練も含めて検証し住民参加により現実的な実効性のあるものに改善していくことを求めます。

以上